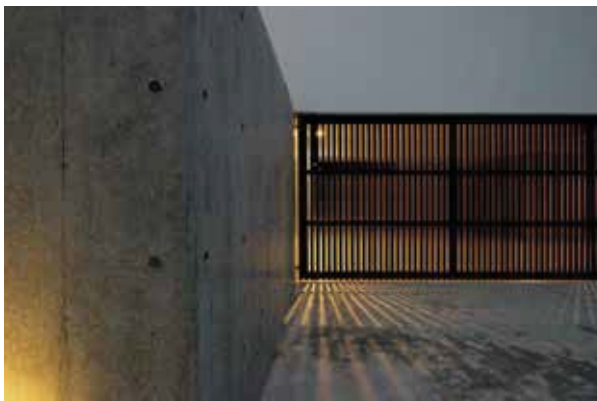


風の抜ける中庭

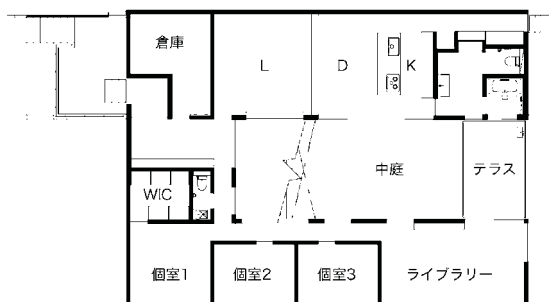
(かぜのぬけるなかにわ)

設計者 / 小島光晴建築設計事務所

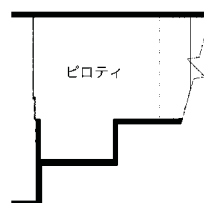
施工者 / 株式会社 吉田組



2F 平面図



RF 平面図



設計主旨

CONCEPT

この家は、夫婦と2人の子供と愛犬が暮らす家である。家族の要望は「家族の時間を共有できる家」であった。敷地は、北側に隣家、東側に山、南側に小川、西側に道路を挟んで廃工場という土地だった。北側隣家に配慮し、高さを抑えた平屋建てとし、山の緑を取り入れるために建物形状や窓を考慮した。小川側は、元あった樹木を残し、建物を緑で覆うことでやわらかいイメージを地域に提供した。道路と敷地の高低差は2m近くあり、そこに家族用の駐車場が必要とされた。土留め工事が必要となったが、建物の基礎と一体でつくることで工期とコストを抑えた。道路は、狭く、工場の高い塀が続く暗いイメージだったが、空地として空間を広げることで明るいイメージに換えた。こうして周辺環境と調和させている。

年長いた愛犬を、鎖につなぐことなく自由に過ごせるようにしたいという要望から中庭型の住宅とした。それにより、みんなで見守れるようになる。また、家族の雰囲気共有できるひとつつながりの空間として、プライバシーが確保できるように開口部を調整し、やわらかなつながりを持たせた。そういったことから中庭の環境は重要となった。そこで、中庭の南側の壁を低くし中庭に光を取り入れ、逆に、北側の壁を高くし反射した光が中庭を明るくするようにした。その外壁は、反射率の高い白を選んだ。また白い壁は、取り込む緑や空を引き立て、外との近い関係をつくり出す。それから敷地の高低差を利用し、風が中庭を通り抜けるようにした。このことで中庭は駐車場とつながり、愛犬が、家族に「お帰りなさい」と言える環境をつくった。同時に中庭が地域と繋がり、明るさを地域に伝えることもできるようになった。昼間はヨーロッパの街中にある陽の当たるパティオのように、夜は室内の灯りが中庭を通してやさしく溢れ、地域を見守る。

家族は、気候の良い時期に外のテラスで食事をするのが心地良いと語る。中庭を通して家族や愛犬を感じ、緑や空などの自然を感じる。この家は、そんな日常の中に大切な豊かさを感じる心地よい住宅となった。